

これまでの就労支援の成果と課題

～ダイバーシティ就労支援に問われること～

(資料2)

1 さまざまな社会サービスに伴う就労支援の拡大(態様別支援の進展・拡大)

①支援機能を担う機関・団体の拡大

②支援機能の進歩

1) 相談(職業アセス)

2) 就労準備、中間的就労等の職業生活(キャリア)の模索・形成段階の支援の萌芽

3) 職業紹介・マッチング支援の試行

4) 定着支援

5) 健康・生活・住居・家族等に関わる包括的支援

③キャリアステップに対応した就業機会の提供(仕事づくり)との連携

④労働施策との連携

2 新たな課題とダイバーシティ就労支援への期待

①「初期キャリアの次をめざす」等の目標とするキャリアの模索・形成に対応する支援プログラムへの期待
(⇒従来の活動を補完する内容。GPの一般化)

②社会サービス等利用のボーダー層(潜在層含む)、特に「雇用の多様化」に伴う不安定就労層(働く貧困層等)の増大(⇒従来の活動にはつながらない層)

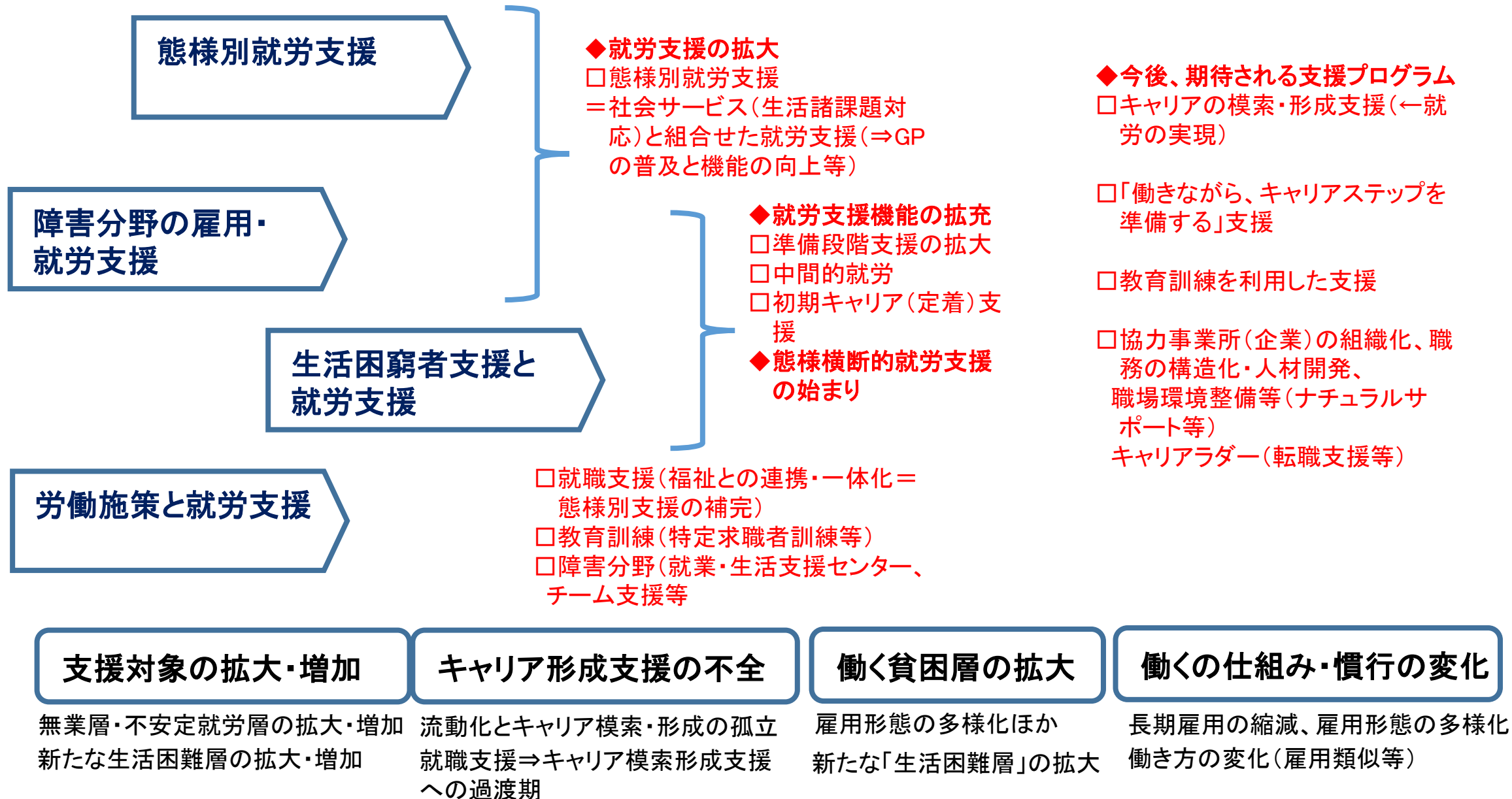
③教育訓練等を利用した支援プログラムへの期待(「学ぶ」支援)(⇒労働施策との連携等)

④企業・働く場と連携した支援プログラムの拡充、協力企業・事業所の組織化への期待

⑤企業等との連携強化への期待。人材開発や職場環境整備等における連携への期待

⑥キャリアラダー等を支える企業ネットワークへの期待

就労支援の経験から 支援機能等の変遷、到達点



ダイバーシティ就労支援という取り組み

多様な就労困難者(キャリアの模索・形成途上の「新たな生活困難層」)が拡大・増加し、より効果的な支援活動や事業、施策が問われている。

これら期待される活動・事業等を「ダイバーシティ就労支援」と位置づけ、これまでの就労支援の成果を伸ばすとともに新たな課題に 대응するため、「ダイバーシティ就労支援のネットワーク」の整備をめざす。同ネットワークは各分野で活躍する支援機関・団体等が引き続き事業・活動等をいっそう強化・推進できるよう、基盤となる連携のネットワークの役割、また「新たな課題等の解決・補完を進める共同のネットワーク」の役割を担う。

連携あるいは共同のネットワークは、地域や経済圏等をベースとした「地域プラットフォーム」と、全国レベルでダイバーシティ就労支援の趣旨や諸活動の普及のほか、各地で活躍する機関・団体等の先進的な取り組みや、地域プラットフォームの整備等を支援する「全国プラットフォーム」に分けられ、それぞれ検討・整備を進める。